

履修コード/科目名称	042701 / 社会科教育法Ⅲ (地理歴史)		
開講年度・期	2019年 前期	開講曜日・時限	金曜日 4時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	生田 清人 (イクタ キヨト)		
副担当教員氏名(カナ)			

授業概要	<p>《地理と歴史の授業を創るために、教師はどのような力量を形成することが求められているか。》という大きな課題を基軸に、「教師として、地理と歴史の授業を創るとはどのようなことか」「地理と歴史の授業を創るとは、どのような活動なのか」「地理と歴史の授業を創るには、どのような考え方と技法があるのか」「地理と歴史の授業の学習評価・教育評価はどのように行うか」などについて、毎回、具体的な実践例の紹介と課題の演習を取り入れて授業を展開する予定です。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、教師が授業を創るプロセスをたどるように、1つ1つの作業を分析しながら進みます。また、あとに続く、社会科教育法Ⅳでは、社会科教育法Ⅲで学んだことを模擬授業や総合的な学習のカリキュラムプログラムなどを通して総合化する形で進みます。</p>		
到達目標(ねらい)	<p>本授業の目標は、高校地歴科の教員免許を取得するだけでなく、地歴科の教師として教壇に立ち続けるための考え方や技法、授業に臨む姿勢を理解し修得することにあります。</p> <p>具体的には、授業を創るための、学習指導案や教材用のプリントなどを自分の力で作り、模擬授業で使える力量の形成をめざします。また、毎回の授業で、授業を創るための姿勢の形成を支援する問いかけに答えることで、授業を創るという仕事について理解し修得することをめざします。</p>		
授業スケジュール	第1回	<p>教師として中・高校生に地理と歴史を教えるとはどういうことか、中学生に教える地理と歴史はどのような教科・科目か、地理と歴史の教育目標や内容構成はどのようなになっているか、など《地理と歴史の授業を創る》意味を考えます。</p>	
	第2回	<p>地理と歴史の授業を創るときの考え方と技法を、単元構成表を作成する演習を通して考えます。単元学習を事例に、自分の力で構成表をつくります。 *高校で使用した地理・日本史・世界史の教科書を準備してください。</p>	
	第3回	<p>地理と歴史の授業を創る前段階として、コンセプトマップを活用して地理や歴史の知識がどのように習得されるかを考えます。さらに、コンセプトマップを活用して授業で扱う学習課題について授業研究をする方法を修得します。</p>	
	第4回	<p>授業で扱う学習課題について、自分の力で教材用のプリント(「教材プリント」とよぶ)をつくる演習を通して、学習課題の範囲の設定、授業での展開の適切な順序などについて考え修得します。 *高校で使用した教科書・資料集・地図帳・統計集などを準備してください。</p>	
	第5回	<p>第4回で作成した教材プリントを、受講生どうして評価しあいます。この作業を通して、どのような観点で教材を準備するか、研究発表での説明の順序と生徒を前にして行う授業での説明の順序の違いなどを検討して、より構造的な授業づくりを修得します。</p>	
	第6回	<p>自分の力で作成した教材プリントをもとに、学習指導案をつくります。授業は、教師の教授活動と生徒の学習活動の総和で成り立つという視点から、授業での教師と生徒のやり取りのシミュレーションや板書計画の作成を中心に習得します。</p>	
	第7回	<p>学習指導案と教材プリントを、受講生どうして評価しあいます。この作業を通して、授業をより構造化するための課題を整理します。また、授業で教師が発する言葉(説明・問いかけ・質問・指示)をどのように組み立てるか修得します。 *ここで第3回から第7回までのふりかえりをします。</p>	
	第8回	<p>第8回と第9回では地理と歴史の授業で活用する教材・教具について考えます。第8回では、1970年代にイギリスの地理教育で考案された教材用シミュレーションゲームを題材に、適切な教材・教具の必要な条件や作り方を修得します。</p>	
	第9回	<p>第9回では、歴史新聞や空想旅行記などロールプレイングゲームを題材に、適切な教材・教具の必要な条件や作り方とともに、地理と歴史の学習課題や教授・学習の内容構成の組み立てについて考え、修得します。</p>	
	第10回	<p>ここまで作った、授業研究用のコンセプトマップ、学習指導案、教材プリントを見直し、授業ができるように仕上げていきます。受講生どうして評価しあい、修正点や今後の課題などを確かめていきます。 *前期課題レポートについて要項をもとに説明し、評価基準も説明します。</p>	
	第11回	<p>学習評価について、どのようなタイミングで行うか、どのような方法で行うかを考えます。また、受講生が作った学習指導案、教材プリントをもとに、テスト案をつ</p>	

	<p>くることを通し、3つのタイミング（診断的評価・形成的評価・総括的評価）の作り方を習得します。</p>																
第12回	<p>自作のテスト案と自作の学習指導案・教材プリントとの整合性を検討しながら、受講生どうしで評価しあいます。それによって、テストの作成だけでなく、どのように教師は教授すべきか、生徒にはどのように学習支援をすればいいかを考えます。</p>																
第13回	<p>生徒の学習評価に対し、教師が作る授業の評価を授業評価、教育評価という。第13回では、これまでに作った学習指導案や教材プリントなどをもとに、貴授業評価の在り方や、評価の基準についてルーブリック評価を中心に考えます。</p>																
第14回	<p>中等教育の学校で社会科教師には、総合的な学習の時間や研修旅行・修学旅行において中心的な役割が期待されています。そこで、第14回では、総合的な学習の実践例を紹介し、また、社会科教育法Ⅳ（後期）に実施する野外実習を題材に、カリキュラムプランニングのありかたを考え、技法について修得する。</p>																
第15回	<p>本授業の成果として、課題レポートを作成し提出する。課題レポートには、授業研究用コンセプトマップ、学習指導案、教材プリント、単元テスト案などが含まれ、これら授業案は、社会科教育法Ⅳ（後期）で行う模擬授業の授業案として活用する。</p>																
準備学習	<p>授業の予習や復習を、とくに求めることはありませんが、授業での演習に必要な資料・史料を収集したり、学習課題の選定や板書計画を立てたりすることや、授業中には終わらなかったことを完成させることなどが必要な時には、自ら積極的な取り組みをしてください。</p> <p>授業を創る練習ではありますが、いずれ教壇に立ち生徒と向き合っ授業をするをいつも意識して取り組んでください。</p>																
履修上の留意点等	<p>受講する学生が、高校で履修した時の地理または歴史（日本史・世界史）の教科書・資料集・地図帳などを準備し、第1回の授業から持参してください。</p> <p>地理と歴史は、本来補完しあう教科です。2022年には「地理総合」「歴史総合」という科目ができ、どちらも必修科目となります。地理だけ、日本史だけ、世界史だけができればいいということではありません。授業の中で、地理にも歴史にも積極的に取り組む姿勢を求めます。</p>																
成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>70 %</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小テスト</td> </tr> <tr> <td>30 %</td> <td>平常点</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		試験	70 %	レポート		小テスト	30 %	平常点								
	試験																
70 %	レポート																
	小テスト																
30 %	平常点																
教科書/テキスト	<p>本授業では、毎回、授業の内容をまとめたレジュメを配布し、資料します。また、過年度の受講生が授業で作った授業案などを実践例として配布します。</p> <p>また、中高教員の採用試験をめざす学生は、次の書籍をテキストに準ずるものとして勧めます。</p> <p>白井嘉一・柴田義松編 『社会・地歴・公民科教育法』 学文社</p>																
参考書 ▶ 図書館蔵書検索	<p>授業の理解を助けるものとして、下記の書籍を参考図書として紹介します。</p> <p>社会認識教育学会編 『改訂新版 中学社会科教育法』 学術図書出版  社会認識教育学会編 『改訂新版 地理歴史科教育法』 学術図書出版</p>																
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	<p>本授業履修後には、教育実習として実際に学校の教壇で生徒に教えることとなります。また、教育実習では、指導教諭などの先生方や生徒からも様々な指摘を受けることになります。そこで、自分の力で修正することも求められます。そのために、授業は先生の研究発表の場ではなく、生徒の成長にかかわる、生徒と向き合うという姿勢を持つことを求めます。また、何かを教えてもらおうではなく、自ら積極的に学ぼう、修得しようという姿勢を求めます。</p>																
関連リンク																	
実務経験がある教員による授業科目																	